

古瀬良則名譽教授年譜

明治二十六年（一八九三年）

八月二十八日 長崎縣高來郡安中村字安徳五五六番戸に古瀬重治五男として生れた。家は代々農を業とした。

明治三二年（一八九九年）

四月 安徳尋常小學校に入學。

明治三十六年（一九〇三年）

三月 同校卒業。

四月 島原高等小學校に入學。

明治三九年（一九〇六年）

三月 同校第三學年を終了。

四月 長崎縣立島原中學校に入學。

明治四四年（一九一一年）

三月 同校卒業。海軍經理學校を受験したが近視のため不合格。

明治四五年（一九一二年）

四月 東京外國語學校英語科入學。在學中特待生。

大正四年（一九一五年）

三月 同校卒業。

四月 石川縣立金澤第一中學校教諭に任ぜられた。

大正五年（一九一六年）

四月 鷺田發次郎長女かよと結婚。

大正六年（一九一七年）

四月 福岡縣立豊津中學校教諭に任ぜられた。六月、長男大六が生まれた。

大正七年（一九一八年）

五月 佐賀縣立鹿島中學校教諭に任ぜられた。

大正八年（一九一九年）

九月 石川縣立金澤第一中學校教諭に任ぜられた。

大正九年（一九二〇年）

二月 長女澤子が生まれた。

大正一〇年（一九二一年）

二月 第二回高等學校高等科英語科檢定試験に合格。最年少、首席であったという。合格者中には、元早大教授繁野天來、元本學教授渡邊行三、元大阪商大教授片山俊の諸氏があった。（なお、第一回合格者中、本學關係者には、いずれも元教授、西

四月 村桐、五味赫、内藤三介の諸氏があった。
東京商科大学豫科講師を囑託された。

大正一二年 (一九二二年)

三月 東京商科大学豫科教授に任ぜられ、高等官七等に叙せられた。四月、從七位に叙せられた。

八月 東京商科大学附属専門部講師を囑託された。

大正一二年 (一九二三年)

九月 高等官六等に、一二月、正七位に叙せられた。一〇月、次女良子が生れた。

大正一四年 (一九二五年)

一二月 高等官五等に叙せられた。

大正一五年 (一九二六年)

二月 從六位に叙せられた。

昭和二年 (一九二七年)

二月 三女洋子が生れた。同月、英語及び語學教授法研究のため滿三年間英吉利國へ留學を命ぜられた。(故岡田良平氏の文相時代であった。同氏が留學を效果あらしめるためには、三年の期間を必要とするとの意見の主張者であったので三年間の辭令を受けたわけであるが、結局辭令だけに終り、實際は二年であった。)

三月 在外研究員として東京を出發。主として Oxford 大學で英語及び英文學の講義をきく。Galsworthy, Shaw の劇等を主に勉強す。

昭和二年 (一九二七年)

七月 亞米利加合衆國及び佛蘭西國を在留國に追加す。
一二月 高等官四等に敍せられた。

昭和三年（一九二八年）

三月 正六位に敍せられた。
四月 在外研究地より歸朝。

昭和六年（一九三一年）

六月 從五位に敍せられた。

昭和七年（一九三四年）

三月 東京商科大学學生主事兼豫科教授に任ぜられた。同月、高等官三等に敍せられた。
四月 勳六等に敍せられ、瑞寶章を授けられた。

昭和九年（一九三四年）

四月 學生主事を免ぜられた。

昭和十一年（一九三六年）

五月 勳五等に敍せられ、瑞寶章を授けられた。八月、正五位に敍せられた。

昭和十六年（一九四一年）

九月 從四位に敍せられた。
豫科會の報國團への改組に當り、總務部長となる。

昭和十七年(一九四二年)

八月 勳四等に叙せられ、瑞寶章を授けられた。

昭和十八年(一九四三年)

五月 東京商科大学豫科教務課長を命ぜられた。

昭和二十年(一九四六年)

八月 教職適格審査委員会に於て適格と判定。

昭和二十二年(一九四七年)

六月 公職適格審査委員会に於て非該当と判定。

七月 一級官を以て待遇された。

昭和二十四年(一九四九年)

五月 大學設置委員会資格審査合格(外國語第一英語)

六月 一橋大學教授に補され、兼ねて豫科教授に補された。一橋大學評議員に選ばれた。

昭和三十三年(一九五七年)

三月三十一日 停年退職。

四月一日 本學規則の定めるところにより一橋大學名譽教授の稱號を授與された。なお、講師を囑託され、九月三〇日解任。四月より東京經濟大學講師を囑託され、十一月一日教授となり、現在にいたる。